

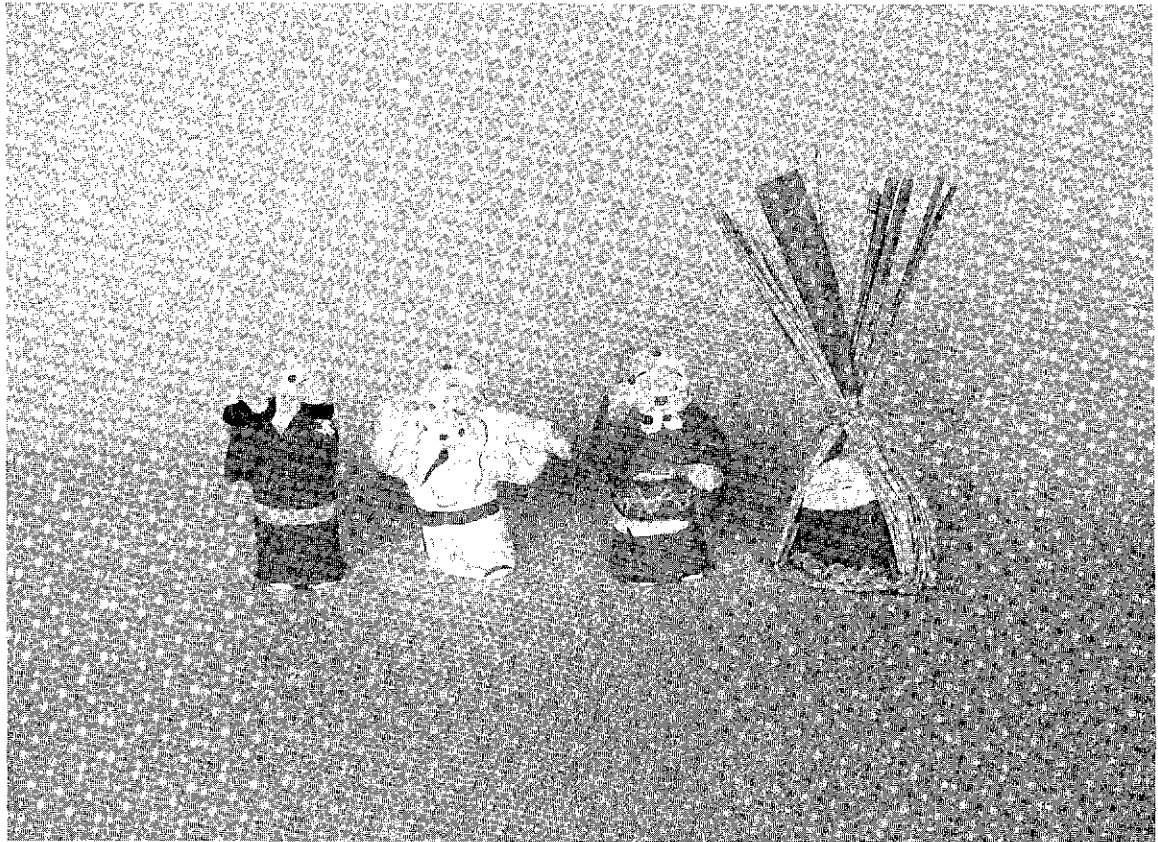
新潟県

62年

# 公民館月報

9月  
第415号

## 特集 第38回県公民館大会記録



### 越後の郷土玩具(九)

おけき踊人形  
と石地藏

郷土玩具の中に入れるにはやゝ難があるが「おけき踊人形」を採りあげる。

関越道の開通と共に観光地として急上昇している佐渡はおけきの島である。佐渡おけきの由米は諸説紛々として三十余りありいづれが真とも

いい難いが、巷間よく耳にするのは「小木に住む貧しい老人の飼猫が日頃の恩を感じて「おけい」という遊女に変身し、出雲崎で歌と踊りで評判をとり「おけい節」といわれたのが転化した」という。名の由来はともかく、九州地方の船乗りの酒盛明ハイヤ節が北前船ののって伝えられたのは確かである。

おけき節は小木港の衰微と共に相川に移った。大正十三年立浪会が結成され、村田文蔵の美声がレコードやラジオで全国的に流行し、勝太郎おけき論争なども加わって民謡の王座を占めるようになった。

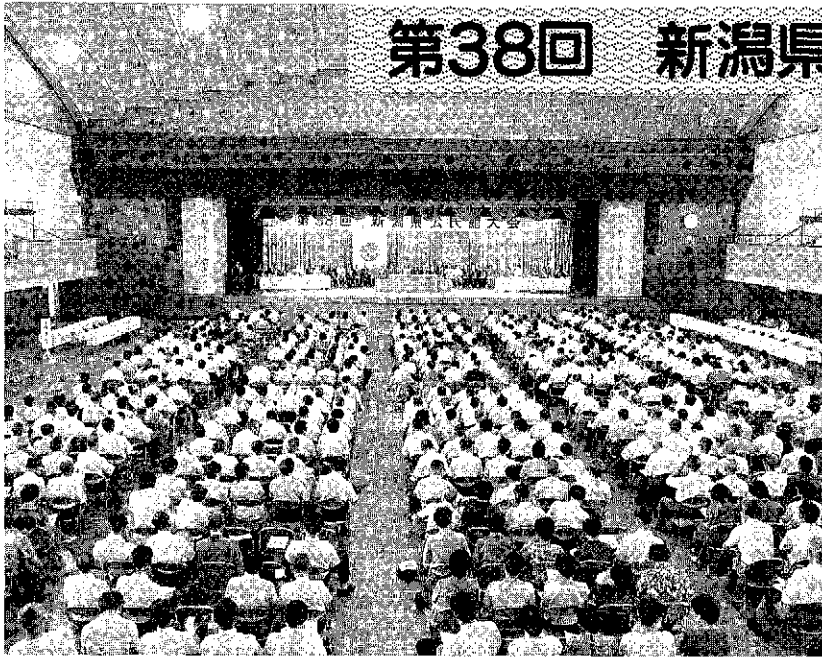
佐渡のお地藏様といえど、賽の河原と梨の木地藏が頭に浮かぶ。最近訪れた際、キチンと手が加わっていきさか興ざめした。  
(玩物居あるじ記)

# 第38回 新潟県公民館大会

## 新津市市民会館で

## 地域に根ざした公民館活動

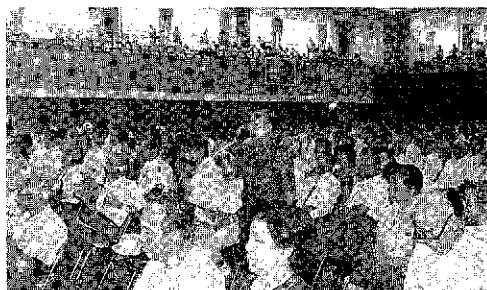
## そのあり方を追究



開 会 式



表彰式スナップ



活発な質疑応答

第三十八回新潟県公民館大会は去る七月二十二日(水)、新津市市民会館を会場に、七百名近い参加者によって開催された。

「地域に根ざした公民館のあり方」を主題に、パネル討論ならびに、早稲田大学客員教授横山宏氏による講義を聞き、終日熱のこもった研究協議がなされた。

第三十八回新潟県公民館大会は、臨時教育審議会の第三次答申における「生涯学習体系への移行」と公民館の役割にふれ、地域に即した生涯学習センターとしての公民館の多様で活発な活動展開を期待する旨、あいさつがあった。さらに本大会顧問の星野行男氏(小千谷市長)から県公民館振興市町村長連盟の新会長としての抱負が述べられた。

県公連副会長渋谷嶺明氏(新発田市公民館長)の開催宣言ならびに、宮嶋昌世氏(村松町公民館長)の指揮による君が代斉唱によって大会の幕が開かれた。

志水巨大会長が開会のあいさつに立ち、例を英国の小学生にとって本大会主題の意図するところを説明。続いて県教育長田中邦正氏(大会名誉会長)からは、臨時教育審議会の第三次答申における「生涯学習体系への移行」と公民館の役割にふれ、地域に即した生涯学習センターとしての公民館の多様で活発な活動展開を期待する旨、あいさつがあった。さらに本大会顧問の星野行男氏(小千谷市長)から県公民館振興市町村長連盟の新会長としての抱負が述べられた。

次に表彰式に移り、優良公民館五館、公民館運営審議委員・非常勤職員永年勤続者十五氏に対し、志水会長から表彰状ならびに記念品が贈られた。なお、被表彰者を代表して、中蒲小須戸町中央公民館の大貫泰弘氏が謝辞を述べられた。

このあと、地元新津市長斎藤富雄氏の歓迎のことは、同市議会議員石井一芳氏の祝辞とつづいてセレモニーは終わった。

十一時からは、基調提案に続いてパネル討論、午後は、早稲田大学客員教授横山宏氏による「触先を常に風上に、前進!!」と題する講義。

閉会式は、地元新津市教育委員長渡辺茂昭氏のあいさつ、次期会場地代表糸魚川市中央公民館長松岡猛氏から「来年は糸西公連が主管をお引き受けする。多分高速道は糸魚川まで開通する見込なので多数の参加を期待する」旨のあいさつがあった。

続いて、湯田幸永新津市中央公民館長から松原益氏に大会旗が引き継がれた。

最後に、全員による公民館の歌の斉唱、新津市教育長白井茂信氏の閉会宣言で大会の幕を閉じた。(なお、全体進行は、五泉市公民館長石塚進氏によって円滑に大会が進行された。)

鬼島 正之氏  
紫雲寺町長



一、現代社会に生きる人々の課題は①寿命が延び、老後をいかに美しく生きるか。②余暇の増大から、余暇を有効に活用するセンスと新しい生活のリズムを身につける必要。③農業従事者をどう明るくできるか。

これらの課題への取り組みを公民館のテーマにして、問題を発掘し、問いかけを。

二、財政力の弱い自治体では、国のあらゆる補助制度に依存して、財政負担を軽くして、施設整備をすすめているのが理事者の切ない立場。だからセクト主義を排し、大きな風呂敷に包んで、その施設にどう「いのち」を吹込むか英知を結集せよ。

三、地域に根ざさない公民館はない。職員リーダーとしての自信と自覚をもち、常に問題意識を持ち、それを大胆に提示する先見性と先導性をもて。住民の中に身をおき、住民と共に痛みを共有する豊かさがほしい。

発想から施設論的運営に変わった。青空公民館のエネルギーをもう一度思い出し、施設論的な運営の補完をしてほしい。いままや、国際的センスをどう培うかなど、流れを変える時期。

若杉 正氏  
新潟日報論説副委員長



パネル 地域に根ざした  
公民館のあり方



司 会  
狩谷松雄氏  
(白根市中央公民館長)

いものは、地域の問題に他ならない。子供の非行の問題、交通問題、公害問題と地域課題はいくらでもあるし、一村一品運動に見られる「地域おこし」や「地域づくり」も生涯学習の重要な課題である。

三、地方の中小都市や町村では市民文化が成熟しているとはいえない。だから公民館は学びたい人に施設を提供してさえないばいというものではない。学習啓発と学習情報の提供に力を入れる必要がある。

二、近年の行革の波で、補助金削減や人員削減を余儀なくされているが、こうした中で、公民館を活発にするには、指導者を身近に得ることが大切。学校の先生、職人さん、普及員さんなどで有能な人材が多くなるもの、初めて頼むときは断られがちだが、一旦引き受けてくれるとやがて、立派な指導者となり協力してもらえ。

一、生涯学習体系への移行の重要性が指摘されている。これは教育を地域に取り戻すことで、地域に生涯学習重視の気風を作り出すことに狙いがある。そういう情勢下での公民館の役割はまことに大きい。

二、公民館の事業が、民間のカルチャーセンターと同じではあまり意味がない。民間でやらないものを公的な社会教育行政がやることで、役割分担となる。民間でやらないことで、公的分野がびびやらねばならぬ

一、長岡市では、伝統芸能の保存活動や地域を知る事業など、地区公民館ならではの事業が活発で成果を上げています。地区の特色をいかした活動が大切である。

二、地域にある他の施設との交流を深め、より深い地域の実情を知るようにしたいもの。また、地域の人々に「学ぶことの楽しさ」を宣伝するなど、学習したことを生かす必要がある。

春日 詰子 さん  
長岡市在住主婦



小林 正秋 氏  
安塚町社会教育係長

企画をとりいれるなど工夫する必要がある。

三、公民館は、各行政機関や関係団体との協力が大切。たとえはイベント会議などで、知恵を出し合い、経費も出し合う方式は当町のような小規模町村では特に効果があります。

お年寄りも横断歩道は手をあげて(秋の交通安全運動)

講義要旨

舳先を常に風上に、前進!!

講義は横山 宏氏(早稲田大学 客員 教授)

中国の農村では、昔から「雨が降ると友達がやってくる」といって喜んだものです。今日の第三八回新潟県公民館大会は雨中での開催、全県の仲間が日頃の実践をひっさげてやってこられたわけです。お喜びと敬意を表します。

一、公民館はいま

公民館は、戦後の焦土と化した困土で、人々が生きる方向を失い、どん底で喘いでいたとき当時の文部省公民教育課長寺中作雄氏によって構想されたものです。寺中氏は、郷土を興す拠点をつくることによって、この荒みきった社会の立て直しを図ろうと考えたのでした。

それから四〇年を経過した今、公民館はどうなっているのでしょうか。

(1)公民館は立派になったが公民館はデラックス化し立派になりました。しかし、建物がよくになるとなかみはだめにな

る」という言葉があるように、公民館はいま必ずしも充実してはいないようです。

(2)地域は荒廃している。大きなビルや鉄道や道路ができ、生活は便利になりました。だが、その反面で人々の心は虚ろになっていきます。特に地域の人間を育てる力(教育力)が低下してきます。昔は子供が悪戯をした時に、近所の小父さん小母さんでそれを叱るうるさい人がいたものです。いま、地域で子供たちに声をかけたり、注意をしたりする人がいるでしょうか。このように人間を育てる力が無くなっています。

(3)地域が見えなくなりました。何十年来住んできた地域です。昔は地域にどんなことがあるか、今はそれがさっぱり見えなくなっています。公民館も同様に地域が見えなくなっていないでしょうか。

(4)内容のない言葉の横行

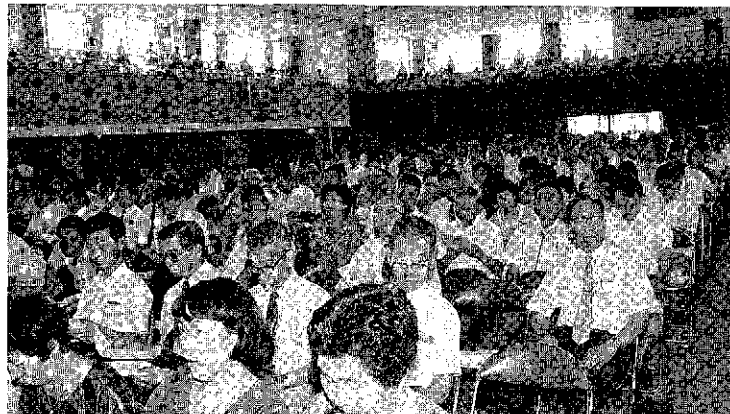
生涯教育とか生涯学習という言葉がしきりと使われていますが、その中身がどういうものなのか、必ずしも十分に把握しないで使っている。なんとなく「人の一生は勉強だ」といった安易な理解の中で、本質を理解しない言葉だけが横行している。こうした内容のない言葉の横行は墮落のもとです。

公民館が、文化・教養・知識といったカルチャーセンターと変わらないものになっていきます。

(5)職員のない公民館の出現

教育機関というのは、建物があり、職員がおり、学ぶ人がいなければならぬわけですから、職員のない公民館は教

育機関とはいえません。(6)公民館の顔がない。公民館は地域と共にあるのだから、その地域の特色をもった個性的な公民館の顔があるべきなのですが、金太郎餅のように何処へ行っても同じ顔しかありません。同じことしかやっています。



熱心に聴きいる参加者

せざるを得ません。

二、道に迷いて 両路あり

公民館の実態はいま中した通りですが、それでは、人々の姿はどうなっているのでしょうか。(1)多忙さと共に、時代に取り残されはしないかという不安にかられています。世の中の変化があまりに激しすぎてついていけない不安にかられています。

(2)地域の課題や生活の課題があとからあとから吹きだしてくる。しかも、その課題に何らかの形で市民の一人ひとりが判断を下さねばならないのですが、どうしていいか解らなくなっています。

(3)人々は自分自身を身失っています。これから十年先二十年先がどうなるか見通しを立てられない。だから、あなた任せにする。それでいて、あなた任せにすることの不安に取りつかれていきます。特にここ数年は、政治経済の問題に無関心になっていきます。公民館も住民も迷って「何とかしなければ」と焦っているのが実情だと思えます。

このように道に迷った場合の打開策は二つ考えられます。一つは前方の光に向かって進むことであり、もう一つは、いままで歩いてきた道を振り返り

その道の延長線上を歩むことで、今日の公民館に愛めたいのは後者です。自分たちの歩んできた道をもう一度振り返り「公民館とは一体何だったのか」と反省したり、過去の多くの苦しい場面をどう乗り越えたかを現在の公民館の関係者の一人ひとりが掘り起こすことです。そこに先達たちの残していった実績が浮かびあがってきます。

### 三、あらためて 初期構想に学ぶ

- 次官通牒の七つの指摘
- ①公民館は社会教育の機関
  - ②親睦、交友を深める社交機関
  - ③郷土の産業を振興する機関
  - ④住民の民主主義的な訓練の場
  - ⑤中央と地方の文化交流の拠点
  - ⑥青年層の積極的参加を求める
  - ⑦郷土の生活に結びついた活動に徹する

この指摘が、公民館の原点であるわけですから、これらを一つひとつ確かめていくことが大切なのではないかと思います。

### 四、明日に向けての 新しい出発

その意味で「あるべき公民館」に向かって、どんなことをしていってほしいのかについて触れます。

(1)公民館は、地域とか、そこに

住んでいる人と強く結び着いた活動をする事です。地域の人が実際の生活の中で困っていること、例えば、教育の問題、子育ての問題、老後の問題、消費生活の問題、健康や有害食品の問題などたくさんあります。そして、人々はそれとどう取り組むべきなのか、どうしたら問題の解決法がわかってくるのかといった問題を公民館は取り上げる必要があります。

(2)公民館は地域に根ざした施設に徹すること。公民館は、カルチャーセンターの真似をする必



横山教授

要はない。カルチャーセンターが逆立ちしてもやれないことつまり、地域のどろどろした問題を語りあい、考え合うことです。その中で一人ひとりの心の中に「どうしたらいいのか」という

気持ちが生み出されてくるでしょう。(3)公民館(の職員)は、地域住民をよく知ることです。

公民館の職員という観点からもう一度住民を見ると、今まで

一市民として見ていたときと違ったものが見えてきます。「公民館の先生!とか主事さん!」などと呼ばれている間はだめ。そのためには、とおり一遍の調査などでなく自分の足で歩き、住民に触れあうことで地域の一人ひとりを徹底的に知る事です。それで、住民の考えていることが解ってきます。

(4)公民館というのは、寺中構想にもありますように、地方自治と民主主義を訓練していく場です。このことが初期の構想に

高々とうたわれていました。この観点から見ると、公運案は、住民が行政あるいはそれに近いところに関わっていく一つの道にすぎません。それを通して民主主義の訓練(自分たちで治めるのだという)地方自治の訓練をしていくことなんです。そうやってみますと、今日の公民館では、地方自治の問題や、政治・経済・平和といった問題がタブーになっていきます。公民館というのは、主権者としての日本人を作っていく重要な場所だということをしっかりと考えてほしいものです。

(5)公民館の公共性 そのことの関連で申し上げておきたいのは、公民館で講座がもたれるというのは、お金は町村民の納めたお金(税金)です。

おきたいのは、公民館で講座がもたれるというの、お金は町村民の納めたお金(税金)です。

とすると、公民館で学ぶということは、近隣の税金を納めた人にお返しするという観点が無いとだめです。隣の人に学んだことの万分の一をお返しするといふ観点が民主主義であり基礎的な政治的訓練だと思えます。

(1)社会教育は不用と言われる。近年、教育とりわけ社会教育への風当たりが強い。その最たるものは、国民の大学進学率の高まりの中で、もはや社会教育でもなからうという「金がかかり過ぎるから」というのである。教育は国家百年の大計といひ、人間づくりに手問ひまかき、そのうえ一口もゆるがせできないもので、金のかかるのは当たり前のこと。教育を経済やソロバンの論理ですすめるのは間違ひ。教育には教育の論理が必要だ。

(2)生活第一主義では危険。社会教育・公民館では生活の問題が重点なのは論をまたないが、「身近な問題でさえあれば、生活さえよければ」といった近視眼的な見方では危険。そのことの裏側に何があるかを知らることが大切です。

意法があつて三度の飯が食える、平和があつて安心していられる、ということから、政治や

経済などについても、公民館はもう少し大胆になることです。(3)自分の眼の高さのものしか見えないでは困る。国民の七八%が中流意識を持っていてという。すると、二%が上流と下流ということになる。このうち上流はごく少数であるから、大部分は下流ということになる。下流という表現は適当ではないので、社会的弱者と考えよう。公民館は、いろんな意味で社会的に恵まれない人たちに眼をやる必要がある。つまり、公民館に来ようと思つても来れない人たちに公民館が手を延ばさねばなりません。

「大事なことは素人に考えてもらえ!難しいことは女人にやつてもらえ!」という言葉がある。素人は「何が大切か」ということをよく知っている。自分の生活に関わりのあることには敏感だからなんです。専門家には専門バカという言葉のとおり、自分の専門のこと以外についてはあまりよく判らない視野の狭さがあります。だから、公民館では、「大言だな」と思うことは市民から知恵を出してもらい、それを受けて行政の専門家が難しいことをやって行くのが(六面下段へ続く)

## お年寄りも横断歩道は手をあげて(秋の交通安全運動)

地域に根ざした公民館活動

わが公民館では



友情のケルンシリーズ  
(障害者と健常者の集い)

梶 瑤子

地域住民の文化活動の拠点である公民館、その活動は多様である。当鳥屋野地区公民館で障害者と健常者が、共に企画し共に活動している事業の一つを紹介しよう。

「音楽を楽しみたい、料理を習いたい等種々な意見が出された。それを更に検討し、新しい事業の構想をまとめた。それは、障害のある人も無い人も互に友情の石を積み上げようとの願いをこめて、「友情のケルンシリーズ」とし、年に三回実施していくことにした。第一回目は、障害に負けず力強く白作の歌を唱う高校生に大きな拍手が送られ、各白持よりのテープやレコードを鑑賞しあった。民生委員心づくしの手づくりケーキとコーヒーで会場はなごやかな雰囲気包まれカラオケまで登場した。これまでに18回のシリーズ事業を実施している。

そんな時、彼等が望んでいるのは、地域の中で気軽に参加できる小集団の活動ではなからうかと考え、地区内の民生委員に相談を持ちかけた。そして、担当区域内の障害者のニーズを調査することとなった。その結果

「首楽を楽しみたい、料理を習いたい等種々な意見が出された。それを更に検討し、新しい事業の構想をまとめた。それは、障害のある人も無い人も互に友情の石を積み上げようとの願いをこめて、「友情のケルンシリーズ」とし、年に三回実施していくことにした。第一回目は、障害に負けず力強く白作の歌を唱う高校生に大きな拍手が送られ、各白持よりのテープやレコードを鑑賞しあった。民生委員心づくしの手づくりケーキとコーヒーで会場はなごやかな雰囲気包まれカラオケまで登場した。これまでに18回のシリーズ事業を実施している。

ささやかな活動ではあるが地域の中で友情の輪が広がりつつある。人間は多くの人と人との関わりの中で成長するもので、障害者、健常者の区別はない。さらに高い石を積み、地域に根ざした友情ケルンをめざしてPart 19以降の取り組みが開始されようとしている。

(新潟市鳥屋野地区公民館 社会教育主事)



縦割り時代の地域づくり

須田 浩

長岡市の、地区公民館の活動です。戸数約二、五〇〇戸、二十、町内会をもち、市中央部に近い、農村とベッタタウンが混在している地域です。

幼小中学校の子どもたちの健全育成をねらい、学校と公民館の連携(学社連携)した事業の一例を紹介します。

公民館が中心となって活動する時、幼小中の枠を越えて、地域を挙げての協力を得られるのが良さであり、これが「縦割り時代の地域づくり」の始まりではないでしょうか。

職員構成は非常勤館長と嘱託女性職員ですが、町内会協議会(館長参与)小中学校・少年学院・老人連合会・育成会など地域にある各種団体から全面的な協力支援を得るなど大勢の地区民の絶大な協力を頂いて楽しく活動しています。その中から、

公民館が中心となって活動する時、幼小中の枠を越えて、地域を挙げての協力を得られるのが良さであり、これが「縦割り時代の地域づくり」の始まりではないでしょうか。

(前頁から続く) いい。ところが、ややもすると行政職員が「これが大切なのだ」と自分でやってしまふことが多い。これは間違っているものだろう。

六、むすびく暁間の彼方に

魯迅の言葉に「絶望の虚妄なること、希望の虚妄と相同じ、だからわたしは絶望の方に賭ける。そして、一点を凝視するとだんだんと周囲が見えてくる。その明るさを、百人が持ち寄れています。

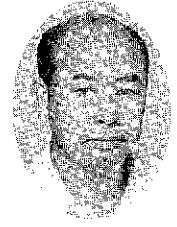
○民俗資料室(郷土愛部)

中学校の教室を提供して頂いて展示し、小中学校の郷土学習にも使ってもらっており、学校文化祭には部員が説明係を受け持っています。

○子供を取り巻く諸問題を語り合う会(青少年部)

これは大人の集会活動で、参加者が幼児部・小学部・中学部に分かれて、十二ヶ年を通しての問題点を語り合っている会です。

(長岡市柳吉公民館長)



生きていた訪問集会活動

池田 満

近隣十十五軒を一グループとして、農繁期を除いた毎月輪番で各戸を会場に集会を持って

いる集落が相川町にある。昭和31年ころ始められた、いわゆる「訪問集会」活動が今なお続けられているのである。

出席者が家族の中で特定な人に偏らないように注意しながら、老若男女が身近なことがらを話題にして集会活動を持つのが慣習として続けられている。

佐渡では、昭和31年に相川町高瀬で始められ、38年を最盛に、その後少なくなり、今では大浦の集落にだけ残っている。

戸数は87戸、グループの数は六組、今も続けられている要因は何かといえは、二年毎に代わる分館役員の努力に負うところが何にもまして大であることは論をまたない。

もう一つの要因に、ライブラリから借りてくるフィルム教材での学習活動があると思われ。というのは、訪問集会では、身近な生活の話題、娯楽、スポーツなどの情報交換や、集落総会への提言のうち合わせなどの



地域おこしの気運醸成活動

山本 鶴 男

他、フィルム教材による学習を通して知らず知らずのうちに地域を見る眼を養っているのである。そのことが訪問集会の話題をより一層地域に密着したものにし、一層話題を豊富にしているという成果があるからである。

人口千人世帯数三・八を対象とする地区公民館の私たちは、地域住民とじかに接する立場ですから、住民感情を尊重し、ニーズを把握しながら、きめ細かな気配りと、愛情を基本にした運営を常にと腐心しています。

境の小地域での活動です。また、当地区公民館は、その運営を地区住民に任せている、いわゆる、自治公民館に近い公民館です。職員は、地区内から選出された役員によって活動しています。いま、当公民館ですすめている事業は、三十年ぶりの「獅子

このようなフィルム利用の集会は、その時々々の生活の問題に関連する教材であるよう、分館長は忙しい自分の仕事をさしおいて、本館の主導とフィルム選定を念入りにするなどの労苦があることが長続きさせているものであろう。

因みにこの集落には、現在16ミリ映写機の操作認定者が30名近くいることも、フィルム利用の多さを物語っている。(相川町教委 副参事)

舞」の復活や「郷土の歴史」をまとめることで、郷土愛を育て「地域おこし」「町づくり」の気運醸成につとめています。また、「愛の声かけ運動」で青少年の非行化防止の活動も明るいあいつで、ふれあい・語りあい・助けあい」の立看板の掲示活動を福祉とドッキングしての啓発活動に力を入れています。

「耕せば動き、憩えば静かな土」です。耕し動かした畑は隆起運動し、花咲き実ります。公民館活動も、畝を休めず耕し続けたいと念じています。(青海町寺地地区公民館長)

「公民館職員研修」の実施要項できる

かねてから本会の新規事業として期待されていた「公民館職員研修」の実施要項ができた。すでに各公民館へ配布され、参加者を募集している。

この研修の特色は、公民館職員の専門性のうち「プログラマー・プロモーター」の部分に重点を置き、「学習プログラムの立案」の理論と実際と、「レクリエーション実技・討議法」などを研修する。また、単に講義を拝聴するという形ではなく、実技・演習を主とした活動的なこと、さらに、演習が中心のため数名の演習助手を用意していること、あらかじめレポートを提出することが特色となっている。

なお、事務当局では、密度の高い指導で研修成果を高めるため、参加希望者が多くとも50名でうち切るとしている。申し込み締切りは十月九日となっているが、早めに申し込まれたい。

実施要項概要

主催 新潟県公民館連合会  
共催 新潟県教育委員会  
期日 昭和62年12月3・4日  
会場 県立青少年研修センター  
受講者 公民館の事業を担当する職員のうち比較的经验

年数の浅い者  
主任講師新潟大学吉川弘  
教授他、演習助手5氏  
特別講師和泉雅子北極探  
険支援副隊長伊藤周左衛  
門氏による講演あり

申込法 受講定員50名、所定の様式によるレポートを添えて十月九日までに申し込む。なお、受講費用は二千五百円(当日納入)必要。

十二月四日(金)

10:00	11:00	12:00	13:00	16:00	19:00	20:00	20:20	9:00	10:30	12:00	13:00	14:00
オリエンテーション	開会式	昼食	講演	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修
公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員	公民館職員

十二月三日(木)

社会教育課

民教協・全国大会

県事業紹介

テレビによる生涯教育の普及をめざす全国の民放三二社で組織されている「財団法人民間放送教育協会」が、設立二〇周年記念をかねた全国大会を新潟市で開催します。

会場 新潟県民会館 大会の概要 今大会は「いのちをみつめて」をテーマに、視聴者、社会教育関係者、放送関係者がそれぞれの立場から、生きていくことの意味を、講演・パネルを参考に、テレビとのかかわりの中で考えていきます。

主管 BSN新潟放送 員会 教育委員会・新潟市教育委員会 期日 昭和六十二年一〇月二二日 ( 月・一〇月二三日 )

参加申込方法・申込期限 新潟市川岸町三丁目一八番地 BSN新潟放送民教協全国大会事務局あてに、九月三〇日までに申し込んでください。参加費は無料です。

昭和62年度 民教協設立20周年記念

テレビと生涯教育研究会全国大会 いのちをみつめて ~愛と信頼~



とき 昭和62年10月22日(木)23日(金) ところ 新潟県民会館 主催 財団法人民間放送教育協会 新潟県・新潟県教育委員会 新潟市・新潟市教育委員会 後援 文部省・郵政省ほか 主管 BSN新潟放送

良書紹介

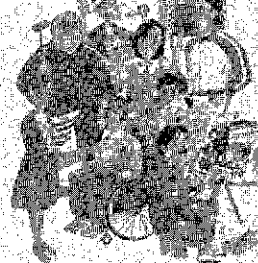
であいとふれあい

まちづくり学習と自治公民館

朝比奈 博編著 教友社

であいとふれあい

まちづくり学習と自治公民館



自治公民館は草創の時代の思想を今日に受け継ぎ、新しい時代の「まちづくり」に挑戦しています。あるときは学習として、あるときはコミュニケーション活動のセンターとして、またあるときは住民自治の城として人々の期待の中にあります。しかし、「まちづくり」は、言葉にしては容易に理解できませんが、その実現はなまなかのことで達成できません。その

ためには「いま、なぜまちづくりなのか」という理由と「そのために何をすべきか」ということについて学習の必要があります。本書はそうした命題に込めるために書かれたものとしてお奨めする一冊です。(B6判一四二頁、昭和61年2月15日教友社発行、定価900円、申し込みは送料240円を添えて県公連事務局へ)

昭和六二年度県市町村社教委員研究大会

第三回の標記の大会が、柏崎市を会場にして開催されます。

藤勉殿による「志向学習を実現しよう」の予定。参加申込み 九月二日まで市町村教育委員会へ申し込んでください。

期日 昭和六十二年一〇月一五日 ( 月・一〇月一六日 ) 会場 「登久満」(柏崎市) 大会の概要 「生涯学習社会と社会教育委員の在り方」を中心に、五分科会に分かれて研究討議。講演は、新潟大学助教授齋

あとがき

一月号から、「越後の郷土玩具」シリーズとして表紙の写真ならびに解説をお願いしてきた「玩物居あるじ」こと野崎史郎氏が去る八月七日急逝なさいました。氏のご冥福を哀心からお

発行所 新潟県公民館連合会 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】 【電話・新潟 (025) 224-6073】 発行人 会長 志水 亘 編集人 事務局長 上村 捨二郎 【定価1部 120円 年共 1,440円】

折り申しあげます。なお、表紙は、計画どおり十一月号まで「越後の郷土玩具」シリーズを続けて掲載します。(上村記)